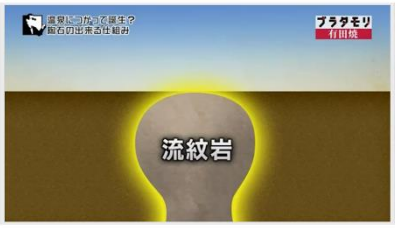
有田町 泉山の地質について　～NHK ブラタモリより～

１　場所

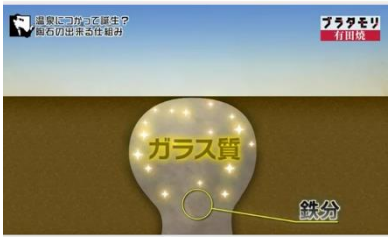
○　有田町 泉山付近の地質とその生成

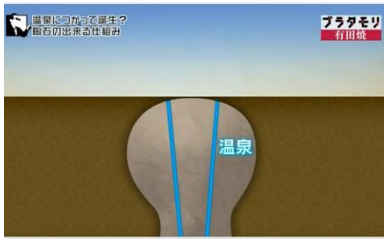
２　概要及び学習との関連

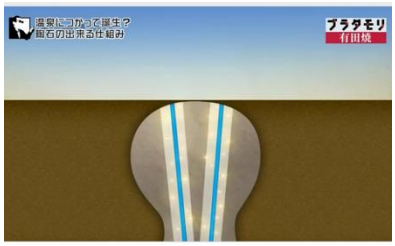
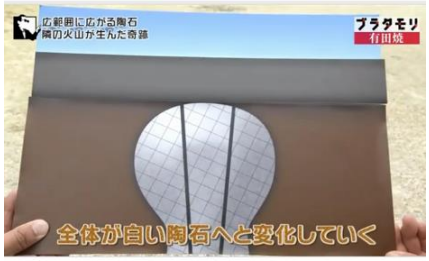
○　２０１８年１０月２０日放送の「ブラタモリ」で，有田町についての番組が放送された。６年生の理科では，「土地のつくりと変化」という単元で２つの土地のでき方について学習するが，実際は地層を観察できる機会はほとんどない。そこで学習を身近なものとするために，自分の住む有田町の地質について，本番組の一部を視聴することで，泉山の成り立ちや特異性に気付かせたい。また，土地の変化は，周囲の条件により様々であり，有田町は，その特異性を生かして町の産業を発展させてきた事実も確認させたい。



磁器の原料が採れていた泉山磁石場はもともと，流紋岩という火山性の岩石でできていた。それは鉄分を含んだガラス質の岩石であったが，岩の内部に熱水（温泉水）が流れ，鉄分を洗い流し，白いガラス質の磁石が残った。







泉山全体が磁石となったのは，今から２５０万年前，横の英山の噴火により，泉山付近が流紋岩の層（厚さ１００m）で覆われた。その後，温泉水の噴出により，泉山付近がすべて陶石（変質性流紋岩火砕岩）に変質した。そして，表面の流紋岩の層が風化することにより泉山が地表に現れた。